

県内の歴史愛好家で作る岡山歴史研究会（石井保会長）は、各地で出前講座を開いて郷土史について話す「吉備国の語り部の会」の活動を始めた。日

頃の調査や研究の成果を広く伝えるとともに、講座を通じて地元への愛着を深めてもらう。（仁井名小百合）

「吉備国の語り部の会」活動スタート

# 地元へ愛着深めて



初の出前講座で山崎さん（右）の講演を聴く参加者  
昨年10月、倉敷公民館

## 岡山歴史研究会 出前講座で郷土史語る

同研究会は2010年に設立。現在の会員は約200人で、各自が関心のあるテーマを持って研究に取り組んでいる。県内には多くの郷土史をテーマにしたグループや講座があることから、会員の研究成果を講師として役立ててもらおうと、出前講座を通じて活動をPRする。

初回は昨年10月下旬に倉敷市本町の倉敷公民館で開き、山崎泰二副会長（77）＝岡山市中区桑野＝が「吉備の知られざる歴史 後南朝と植月御所」のテーマで講演。後醍醐天皇の子孫が美作地方に御所を開き、南北朝の合体（1392年）以降も「美作後南朝」として皇統が存続したとされる伝承について語った。市民や会員ら約40人が参加し、熱心にメモを取るなどして聴き入っていた。

今後も出前講座を開くとともに、グループなどから要望があれば、会員を講師として派遣する。活動を担当する同研究会の丸谷憲二さん（72）＝同市東区西大寺上＝は「さまざまな場所や会合に出向いて、岡山の歴史を伝えたい。郷土に関心を持つきっかけになればうれしい」としている。

次回の出前講座は2月4日午後1時半から、矢掛町小田の小田公民館で開催。山田良三事務局長（71）＝岡山市南区大福＝らが講演する予定。

活動に関する問い合わせは加納隆司さん（080-58988-4131）。

### 畳縁の魅力伝えたい

東京のアンテナ店「慶応大生がバッグ展」

（21）は「畳縁はデザイン品に生かせる。商品だとも伝えたい」と話す。ン豊宣でさまざまな製「けでなく、作り手の思」（内田光祐）

水木しげる生誕祭をPRするキャラバン隊

雅子さん（目玉おやしげ）

### 原本邸大座らい

整備資金を援助した鶴形山隧道の平面図や、日倉敷町に電話を開設した感謝状のほか、フランスから授与された勲章なども展示されている。また、孫二郎の

プラスワンギャラリー（086-422-8058）。古布でつくった木目込み雛人形、びょうぶ、つり飾りなど多数＝写真は作品例。前10時～



後6時（最終日は後4時まで）。

た布につかまり空中を舞う「エアリアル」、ジャグリングといった柔軟性や怪力を生かしたステージなどを繰り広げる＝写真はちらし。S席1万2000円、S席9500円、A席8500



まちナビ